

年間行事

1月1日 修正会
2月の第1日曜日 大般若会
5月4日 濫觴会
5月5日 一切経会、舞楽奉奏
9月の第2日曜日 柴燈護摩会
12月31日 除夜の鐘

慈恩寺舞楽 (じおんじぶがく)
5月5日の一切経会で燕歩・散手・太平樂・二の舞・陵王などの八番が谷地の林家と慈恩寺一山衆によって奉奏される。国指定重要無形民俗文化財。

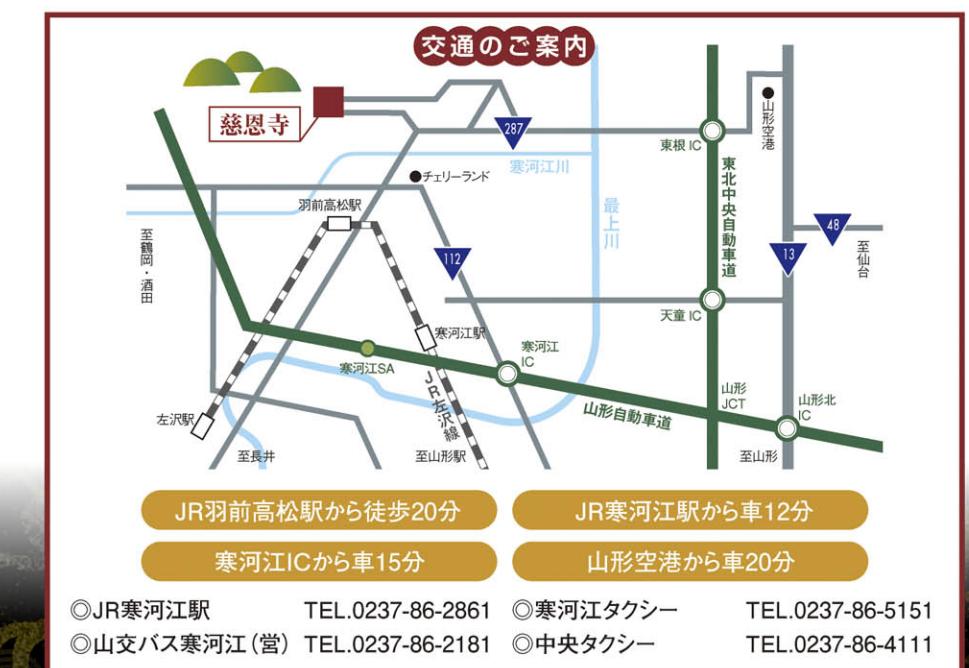
パワー スポット

若がえり祈願

鎌鉄仏餉鉢

ちゅうてつぶつしょうばち
【県指定文化財】

本堂に置かれるこの鉢は、慶長11年(1606)に谷地の鎌物師によって作られた。細部の装飾や全体のバランスの良さから、その技術力の高さがうかがえる。この鉢に頭を入れるとボケ防止、若返ると言われている。



受付／午前8時30分～午後4時
拝観料／500円(15名以上、300円) 年中無休

本山慈恩寺寺務所 TEL.0237-87-3993
山形県寒河江市大字慈恩寺地籍31 詳しくは「慈恩寺」で検索してください。
寒河江市観光物産協会 TEL.0237-86-8866 寒河江市さくらんぼ観光課 TEL.0237-86-2111

時空を超えて、慈恩寺の仏像に出会う

抑々当山は神亀元年（七二四）僧行基が諸国巡錫の砌、この地の景勝なるを見て都に帰り、聖武帝に奏上、天平十八年（七四六）勅命によつて婆羅門僧正が開基し、称勒菩薩を本尊として、寒江山大慈恩律寺と号したと伝える。

平安時代寒河江荘が攝闍家藤原氏の荘園として成立したのは延久元年（一〇六九）以前とされるから慈恩寺は藤原氏の庇護をうけ、荘寺的性格の寺院であつたと判断される。

天仁元年（一一〇八）鳥羽帝の宣勅によつて奥州藤原基衡が当寺を修営し、仁平年中（一一五一年一五三）奈良興福寺の僧願西上人が再興諸堂造営を行なつた。京文化を伝える平安後期の仏像が十四体を数えるのは当時の慈恩寺を物語るものである。

その後文治元年（一一八五）後白河院の院宣右大将頼朝の下文を帯して高野山から真言僧弘俊阿闍梨が来山し山号を瑞宝山と改めた。鎌倉以降領主大江氏の庇護をうけ、室町の末大江氏が滅亡すると最上氏がこれに代わり、元和八年（一六二二）最上氏改易後は幕府より二千八百十二石余の御朱印を付せられ、勅願寺として又鎮護国家の祈祷寺として崇敬された。明治維新後御朱印が停止され、一山は衰亡した。

慈恩寺の宗教は先ず法相が入り、天台真言修験の外時宗があり、最上、華蔵、宝蔵の三か院四十八坊からなる一山寺院であつた。終戦後一山は独立して慈恩宗となり本山慈恩寺として現在に至つている。



郷目貞繁筆絵馬【市指定文化財】

郷目貞繁は、寒河江大江氏の家臣で東北最古の武人画家。躍動感のある描写は、馬が絵を抜け出して走り回ったと伝わる。



天女図

本堂外陣の鏡天井には八方睨みの龍を中心、艶やかな六面の天女図が迎える。



薬師三尊と十二神将【国重要文化財】

薬師如来及び日光・月光菩薩。十二神将は護法神であり、躍動的な彫刻は全国的にも第一級で、日本を代表して海外展にも出陳されている。

